

株式会社 昭和ネオン

# 100年史

(1922 - 2022)  
100th Anniversary



希望の空にまばゆく映えた  
太陽だ、昭和だ、昭和のネオン  
社員の若き情熱を  
光り輝くその日まで  
燃やせ、吾等の心と心

あなたの街も私の街も  
灯りだ、昭和だ、昭和のネオン  
明るい暮らし明日もまた  
虹のかなたに夢のせて  
照らせ吾等のこの胸を

手に手を取って今日もゆく  
ネオンだ、昭和だ、昭和のネオン  
みんなのための幸福を  
築く未来のあの窓へ  
響け吾等の心意気

## 昭和ネオン 社歌

※この歌は品川本社で年間を通じて  
毎朝、始業前に全館放送される社歌です



株式会社 昭和ネオン



## ごあいさつ



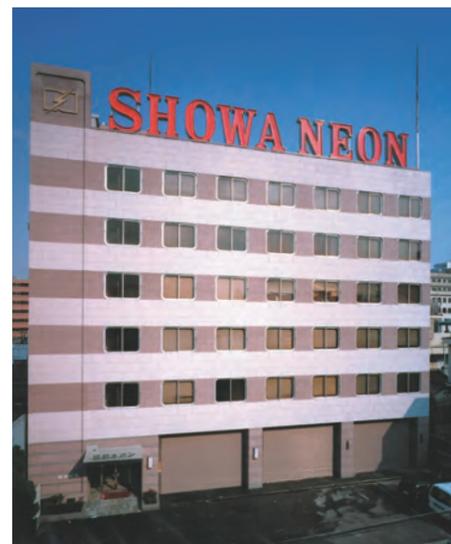
今からちょうど100年前の1922(大正11)年に当社は東京霊岸島(現在の中央区新川一丁目付近)で「高村看板店」として創業を開始し、今日を迎えるに至る歴史が始まりました。日本にネオンサインが人々にお目見えしたのは1926(大正15)年とされます。当初は商店のサインを手がけていた高村看板店も程なくしてネオンサインを取扱うようになり、1927(昭和2)年に「昭和ネオン工業所」と改称致しました。国民の平和、世界各国の共存共栄を願うとされた年号「昭和」を社名に冠しましたが、ご承知のとおり激動の時代を象徴する年号としても記憶されるべき時代となりました。そのような時代にあってもネオンサインは戦前・戦後を通じて銀座をはじめとする日本各地の繁華街を明るく彩る光源として、また同時に人々の心にも光を灯して参りました。もちろん大型ネオン広告塔の掲出はスポンサー企業の活力の証でもあり、都市の経済力を

反映させるものでもあります。更にデザイン性と施工技術の向上をうけ、円柱型広告塔・球体型広告塔など形状形態も多様化していき、ネオン広告塔がその街を代表するランドマーク的なオブジェとして位置づけられて街構成の要素ともなり得ました。

太平洋戦争による戦災、避ける術の無い震災、景気動向がその都度企業活動や広告業界全体に打撃を与えてきたことに疑いはありません。当社もこの時代の流れに翻弄されながらもなお、今日まで社業を継続して来ることが出来たのは偏にお得意先様のご愛顧をはじめとし、所属業界団体関係者様、協力業者会である昭和会会員会社様のご協力の賜物と幾重にも厚く御礼申し上げます。そして当社の歴史に社員の存在は絶対であり、幾多の困難のたびに当社の理念でもある「明るく安全な街づくり」を心に先輩社員達は努めて参りました。時代は令和へと移り変わり、屋外広告の黄金時代とも言うべきネオンの華やかな時代は変化を遂げ、今日多くのサインに用いられる光源はネオンからLEDへほぼシフトされ、更にデジタル時代の到来による印刷表現力の向上によるIJPサイン、屋外対応型の大型LEDビジョンはコンテンツ技術の進歩により表現力の高いサインがこれからますます都市に増え続けております。その上で当社では大型LEDビジョンに関しまして永年にわたる自社のノウハウを最大限活用した「SHOWA VISION」というオリジナルブランドとして企画、設計、製作、取付、運営協力、メンテナンスを一貫で請け負う事業を2017(平成29)年から本社と千葉総合工場を拠点として開始しております。キャパシティを活かした工場内では、LEDパネルの仮組を行う事で実際の設置状況に近い環境での検収が可能となり、お取引先様からも好評を得ており、これからの当社の柱にもなり得る事業と考えております。

最後になりますが私共はいわゆる「100年企業」の仲間入りを果たした訳ですが、これからも世界的な美しい都市景観を創出する一翼を担うべく研鑽を重ねていく所存でございますのでより一層のご交誼、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2022年6月  
株式会社昭和ネオン  
代表取締役社長  
高村 徹



品川本社ビル 1973(昭和48)年 竣工  
2003(平成15)年 改装



## 目次

contents

ごあいさつ	2
会社概要	3
社内行事	4
沿革	5
作品年表(大正~昭和I)	7
作品年表(昭和II)	9
作品年表(昭和III・平成)	11
作品年表(平成から令和へ)	13
OOHの新しい時代~デジタル時代の到来	15
SHOWA VISIONの躍進	17
メディアへの取材協力	18
昭和ネオン高村看板ミュージアム	19
屋外広告物各種コンクールの当社入賞作品	21
NEXT GENERATION ~次の100年に向けて~	22

## 会社概要

会社名 株式会社昭和ネオン

資本金 1億円

営業内容 ■ LEDビジョン ■ 展示ウィンド装飾  
 ■ 各種サイン ■ インテリア  
 ■ ネオンサイン ■ 請負工事一式  
 ■ 鉄骨工事 ■ ディスプレイ  
 ※ デザイン・設計から施工まで一貫作業

### 本社

〒140-8701  
 東京都品川区南品川1丁目7番17号  
 TEL (03) 3471-4141(大代表)  
 FAX (03) 3450-6166

2F 昭和ネオン高村看板ミュージアム  
 3F SHOWA VISION ショールーム

WebサイトURL : <http://showaneon.co.jp>  
 e-mail アドレス : [info@showaneon.co.jp](mailto:info@showaneon.co.jp)

### 国内拠点

千葉総合工場 千葉県八街市八街は105番地  
 TEL(043) 444-4111(代表) FAX(043) 444-4113

札幌営業所 札幌市中央区南一条西9丁目1番地15号  
 TEL(011) 271-2750(代表) FAX(011) 281-1429

仙台営業所 仙台市青葉区一番町1丁目4番30号  
 TEL(022) 261-2793(代表) FAX(022) 261-2795

名古屋営業所 名古屋市中区栄1丁目22番7号  
 TEL(052) 201-2500(代表) FAX(052) 242-2804

大阪支店 大阪府豊中市箕輪3丁目3番3号  
 TEL(06) 6855-3101(代表) FAX(06) 6855-3104

広島営業所 広島市中区基町12番8号  
 TEL(082) 227-2821(代表) FAX(082) 227-2870

福岡営業所 福岡市中央区大名1丁目4番1号  
 TEL(092) 781-6081(代表) FAX(092) 711-7089

### 取引銀行

みずほ銀行 日本橋支店  
 三井住友銀行 五反田支店  
 三菱UFJ銀行 品川駅前支店  
 りそな銀行 五反田支店  
 商工組合中央金庫 本店  
 横浜銀行 新橋支店  
 城南信用金庫 品川支店

### 加盟団体

公益社団法人 日本サイン協会  
 公益社団法人 東京屋外広告協会  
 一般社団法人 LED光源普及開発機構  
 関東ネオン業協同組合

## 役員一覧

代表取締役社長 高村 徹  
 取締役副社長 高村 祐次郎  
 専務取締役 佐藤 好規  
 常務取締役 伊藤 雅之  
 常務取締役 辻 宏志  
 監査役 高村 光江  
 (2022年6月現在)



### 昭和会

国内に配置された支店・営業所と、全国150社で組織された協力会「昭和会」によるサポート体制が国内ネットワークをカバーしています。

### 各種資格・登録

国土交通大臣許可(特・般-2) 第5738号  
 一級建築士事務所東京都知事登録 第3591号  
 電気工事業通商産業大臣届出 第4617号  
 〈建設業許可〉  
 ・ 建築工事業  
 ・ 内装仕上工事業  
 ・ 塗装工事業  
 ・ 鋼構造物工事業  
 ・ 電気工事業  
 〈屋外広告業登録制度〉  
 ・ 施行導入された129ヶ所へ全て登録済

## 社内行事



1953(昭和28)年 慰安旅行(昇仙峡)



1954(昭和29)年 スキー大会(赤倉)



1956(昭和31)年 ゆかた大会(後楽園)



1961(昭和36)年 戸隠山荘披露会



1965(昭和40)年 社員運動会(千葉総合工場)



1990(平成2)年 社員旅行(タイ)



2009(平成21)年 組合行事(東京湾屋形船)



創業の地 霊岸島  
(現在の中央区新川一丁目)



初代社長  
高村 忠治



二代目社長  
高村 衛治



三代目社長  
高村 五郎



文京区元町一丁目6番に工場を設置した当時1953(昭和28)年



1957(昭和32)年 文京区より品川区へ移った当時の本社と工場



1961(昭和36)年頃の品川本社



地鎮祭の様子



無線装備を備えた無線サービスカーを配置し、機動力の伴った補修のスピードに務めた  
※ 1班~4班を編成し、毎日、社員によるネオンの点検を行う



高村 五郎 藍綬褒章受章



銀座ミキモトホールで古美術看板展を開催し記念誌「時代を映す看板」を出版



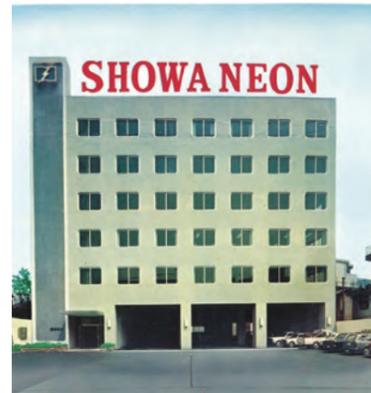
高村 徹 藍綬褒章受章



1964(昭和39)年 東京オリンピック



1970(昭和45)年 日本万国博覧会



1973(昭和48)年7月 本社ビル竣工



1990(平成2)年4月 大阪支店ビル建替竣工



大阪支店新屋竣工披露パーティーの様子



2006(平成18)年3月 千葉総合工場改装



2006(平成18)年3月 本社ビル内に「昭和ネオン高村看板ミュージアム」を開設

株式会社  
昭和ネオン  
創業100周年

# 作品年表 (大正～昭和I)

Work chronology



1933 (昭和8) 年頃の銀座

1922(大正11)年、東京霊岸島に誕生した高村看板店は初代社長高村忠治を中心として書き看板をメインに商店の看板を多く手がけます。国内でネオンが人々の目に触れるようになり、2代目社長高村衛治の年代に看板にネオン管を用いる研究開発を進め当時国内で数社といわれたネオン製作設備を整え1927(昭和2)年に現在の前身である「昭和ネオン工業所」を設立して本格的にネオンサインを手がけるようになりました。

1922年  
(大正11年)

1926年  
(昭和元年)



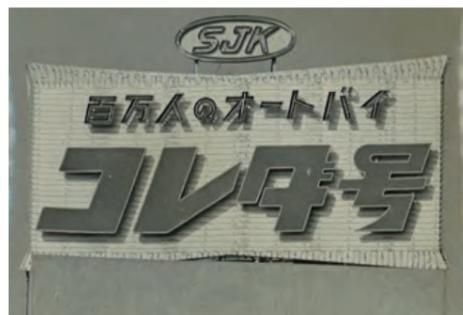
1959 (昭和34) 年 伊香保旅行



1961 (昭和36) 年 創立記念式典



1969 (昭和44) 年 城ヶ島～南房総社員旅行



# 作品年表 (昭和Ⅱ)

Work chronology



アサヒビール吾妻橋工場 1955 (昭和30)年

1951(昭和26)年に戦災を経て高村五郎が3代目として株式会社昭和ネオン工業所を設立、社長に就任します。拠点を現在の品川区南品川に移し本格的に大型ネオン広告塔の受注生産を開始しました。高村五郎はネオン塔新設における「ブロック工法」を編み出し、作業工程の分業化を図ることにより、安全で効率的な施工方法で生産力を飛躍的に向上させます。のちに千葉総合工場の整備に着手。昭和ネオンの機動力の根幹として1971(昭和46)年より本格稼働を開始いたします。



1965(昭和40)年 千葉総合工場披露・稲毛潮干狩り旅行



1967(昭和42)年 千葉総合工場地鎮祭



1967(昭和42)年 千葉総合工場



# 作品年表 (昭和Ⅲ・平成)

Work chronology



サッポロビール銀座 1997(平成9)年

高度経済成長期は東京オリンピック、大阪万博の後押しもあり各企業の広告費予算枠も増加していきます。大型ネオン塔の掲出はインパクトをもって企業名アピールする事が可能であり、ネオン広告を掲出する企業は消費者へ信頼度を強くして白物家電の購買意欲を向上させ、自動車メーカーはマイカーブームの波に乗り、自動車関連メーカーを含め多くの広告塔を出現させるに至ります。1973(昭和48)年には全国をカバーする支店営業所の国内配置を完了して、スポンサーのオーダーに対応する拠点を整えました。



重機による建植看板の建方作業

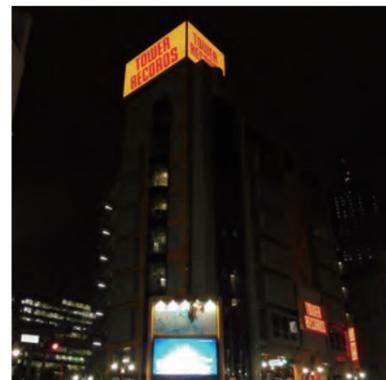
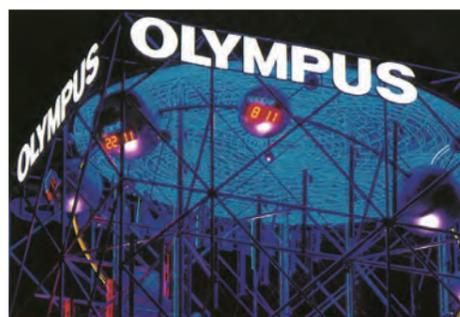
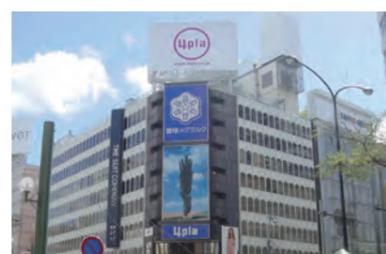
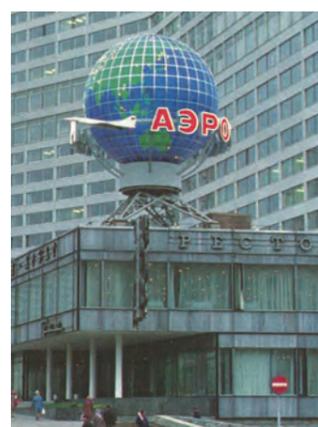


ネオンボダーの着管作業



鉄骨建方作業

1989年  
(平成元年)



# 作品年表 (平成から令和へ)

Work chronology



リコー銀座 2006 (平成18)年

昭和60年代の日本経済は引き続き好景気を持続し、バブル経済は人々の社会生活に新たなる活力を与え、嗜好性に富んだ消費生活スタイルを市民は謳歌致します。これに追随して大型商業施設やアミューズメント施設が次々と誕生していきます。屋外広告業界も各媒体社で良好な媒体スペースの確保に奔走する時代でもありました。平成の後半に入り、屋外対応型の光源として誕生したLEDは徐々に露出タイプやモジュールタイプ、投光器などがサインに多く用いられるようになりました。

■ 製作工程 リコー銀座三愛ドリームセンタービル 2006 (平成18)年



1.文字組立 2.本体仮組 3.搬出作業 4.本体取付け 5.完成

2019年  
(令和元年)

2022年～  
(令和4年)



# OOHの新しい時代～デジタル時代の到来

A new era of OOH ~ The arrival of the digital age



近年、その数を急増させている屋外仕様の大型LEDビジョンは屋外広告媒体ならではのスケール感とタイムリーな情報を複数のビジョンを通じて配信する有効性、またコンテンツ技術の向上により、人々の注目を集める新たなメディアになっています。現在に至るそのスタートは、電球の点滅を制御することで文字やシンプルなデザインを表現した電光掲示は固定された意匠表現と異なり世間へのタイムリーな情報を提供する事に始まりました。いわゆる電光ニュースと当社では位置づけておりました。時事情報や時刻、天気予報の情報を提供することで公共性を高めるものでもありました。

## SHOWA VISIONの誕生

1990年代に入って誕生した白色LEDの登場は屋外使用も可能なサインの光源への活用へのみならず「フルカラーLEDビジョン」へも取り入れられて屋外使用が可能な多数のビジョンが誕生しています。この新しい時代に則した屋外広告アイテムについて当社においては「SHOWA VISION」ブランドとして永年のノウハウを活用し、媒体設定をはじめとして企画、設計、部品調達、工場内仮組、試験点灯、現場設置をワンストップでスポンサーのサポートが可能な体制を2017(平成29)年より開始しております。

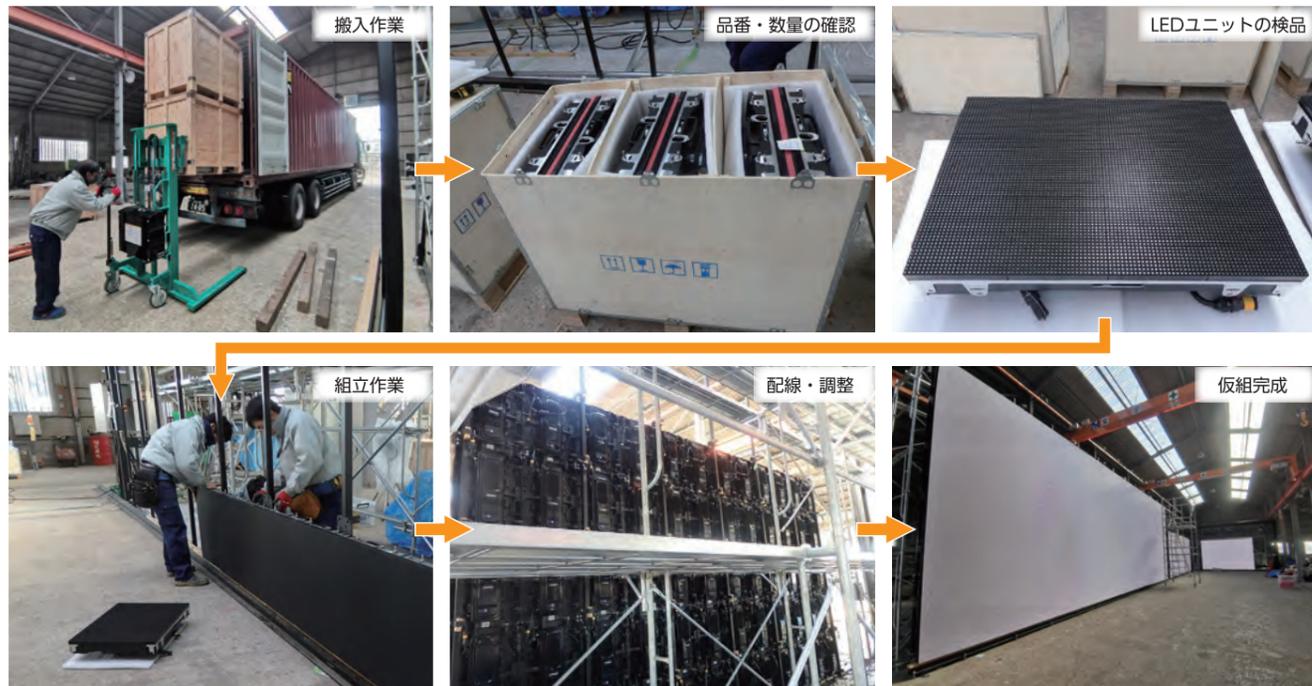
### ■ 仮組用設備の整備

2017(平成29)年に「SHOWA VISION」事業に向けて大改修した千葉総合工場は、「幅20m、高さ5m」及び「幅10m、高さ5m」の規模を持つLEDユニットの仮組用設備を設置しました。奥行50mを生かして、実際の視認性や施工現場に近い状況下の検証も可能となっております。



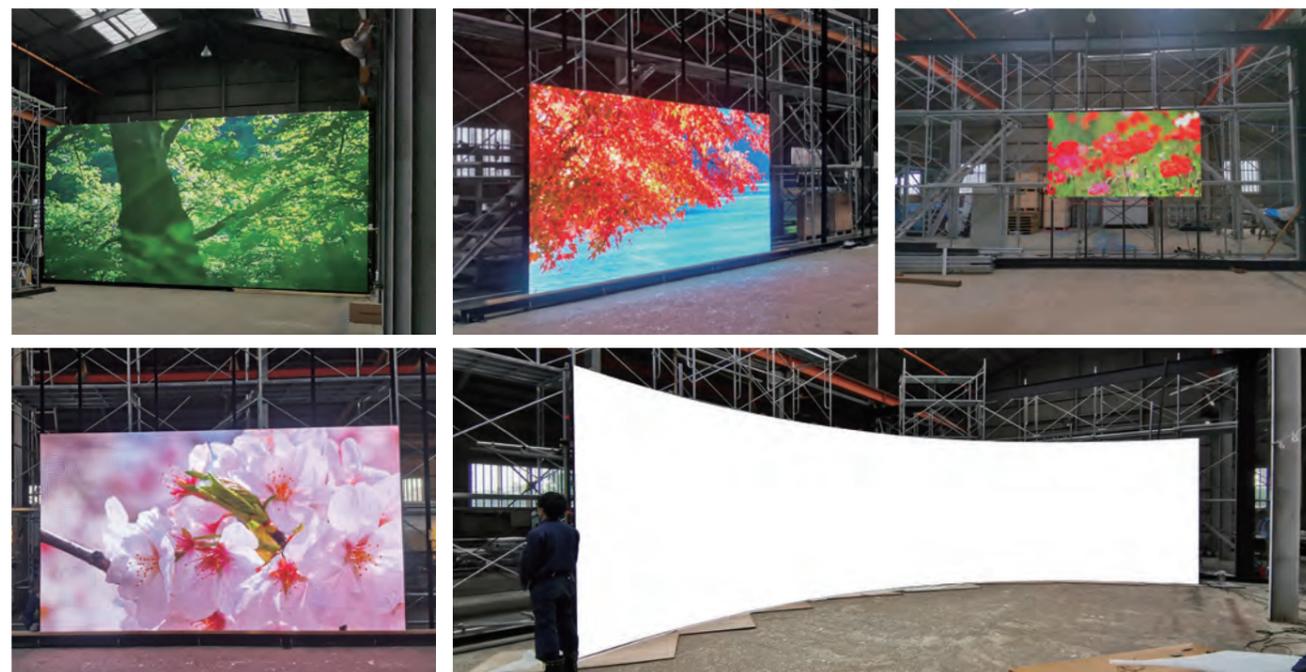
### ■ 千葉総合工場における検品・仮組

搬入されたLEDユニットを一点、一点検品の上、実際の取付施工を想定した実機の仮組を工場内で行います。



### ■ 試験点灯

実施工時に不点灯が起こらないようにエラーチェックを兼ねて全LEDユニットを数日間全点灯させます。



### ■ 現場施工

点灯確認を行いながら、ミリ単位の微調整でLEDユニットを隙間なく設置していきます。



### ■ 完成



2021(令和3)年3月  
心斎橋PARCO

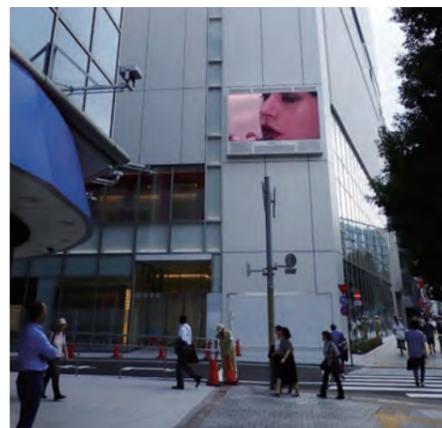
# SHOWA VISIONの躍進



2017(平成29)年12月  
ハリウッドワン(ベトナム：ハロン湾)



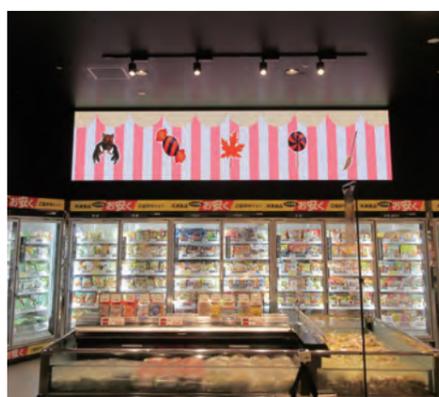
2019(平成31)年3月  
プリマハム(数寄屋橋)



2017(平成29)年9月  
PARCO\_ya(上野)



2019(平成31)年3月  
ハリウッドワン(ベトナム：ハノイ)



2019(令和元)年11月  
サミットストア テラスモール(松戸)



2020(令和2)年2月  
MESSE AMUSE MALL(幕張)

## メディアへの取材協力

### Media coverage cooperation

屋外広告という分野は一般消費者の方にとっては日常生活において、見慣れたサインや看板ではあっても、意外にその製作過程等はあまり世間に知られるところではありません。当社ではガスバーナーを使用したネオン管の製作加工風景をはじめ、エネルギー問題が注目される際には各種マスメディアから取り扱われる機会が少なくありませんでした。当社では都度業界を代表して、時に老舗看板屋として紹介され、一般市民の方への理解度を高める一助として数々の取材協力にもつとめて参りました。

### NHK



NHKニュース7  
2011(平成23)年8月1日



NHKスペシャル カラーでよみがえる東京  
不死鳥都市の100年  
2014(平成26)年10月19日

### 民放各社



テレビ東京「生テレビ東京探検」  
1987(昭和62)年



フジテレビ「火曜ゴールデンワイド」  
1993(平成7)年



日本テレビ「所さんの目がテン!」  
1996(平成8)年



テレビ東京「出沒! アド街ック天国」  
2020(令和2)年

### 経済紙



エコノミスト  
2007(平成19)年1月



経済界  
2018(平成30)年4月

### 新聞(全国紙)



読売新聞  
2006(平成18)年  
3月20日



毎日新聞  
2006(平成18)年  
5月26日

### 新聞(業界紙)



新聞改造  
2017(平成29)年  
4月13日

### 雑誌(業界紙)



POP EYE  
2019(令和元)年6月



Signs & Displays  
2018(平成30)年4月



Signs & Displays  
2019(令和元)年6月

### 雑誌(一般紙)



POPEYE  
2003(平成15)年9月

# 昭和ネオン高村看板ミュージアム

3代目社長、高村五郎は公益社団法人全日本ネオン協会（現：公益社団法人日本サイン協会）が記念誌「日本のネオン」を1977(昭和52)年に出版するにあたり、編集を担当した時、役目を終えた看板の写真資料の不足、保存の難しさを身に染みて感じました。そこで撤去され廃棄されるサインを憂いた高村は屋外広告のルーツとも言える古看板のコレクションを始めました。その数は400点余りにのぼり、いつかは広く一般の方々へ見て頂ける施設を作るのが夢でした。その夢を現社長高村 徹が叶えるべく、2006(平成18)年旧東海道品川宿に面した本社2階へ木製看板を中心とした180点ほどを展示した「昭和ネオン高村看板ミュージアム」を開設し、広く一般市民の皆様にご覧頂く施設として今日に至っております。



ミュージアム入口



ミュージアム館内



ミュージアム館内



2006(平成18)年3月17日に本社で行われたオープニングレセプションの様子

**昭和ネオン 高村看板ミュージアム 3月17日(金) オープン**

「看板」はネオンサインのルーツ。江戸から昭和の街並みを彩った看板コレクション180点が旧東海道品川宿に舞い降りる

昭和ネオン 高村看板ミュージアム

TEL: 03-3471-4140

入場無料

http://www.meritbank.net/showaneon/

2006(平成18)年 ミュージアムのオープンに際し大手新聞各紙に掲載された広告

## 高村看板ミュージアムを特集掲載した数々の雑誌



# 屋外広告物各種コンクールの当社入賞作品

1949(昭和24)年の屋外広告物法制定以降、官民が足並みを揃えてサインを通じて美しい都市の街づくりに貢献して参りました。公益社団法人東京屋外広告協会によって主催される「東京屋外広告コンクール」における受賞の栄誉はその結実となります。当社ではスポンサー様のご協力のもと、数々の受賞もまた当社の歴史として記憶されます。これからも美しい街づくりで明るい都市の夜景を彩る一助を担って参ります。

## 主要授賞作品 ※ネオンコンクール

大和証券看板	浅草	第3回	第2部	3等
山一証券看板	田村町	第3回	第1部	2等
山一証券看板	銀座	第3回	第2部	1等
野村証券看板	日本橋	第3回	第2部	2等
雪印乳業看板	神田	第4回	第1部	3等
野村証券看板	銀座	第4回	優賞	賞
雪印乳業看板	銀座	第5回	第1部	1等
日本コロムビア看板	新宿	第5回	第2部	2等
松坂屋看板	上野	第5回	第2部	2等
香港飯店看板	新橋	第5回	第2部	3等
日立セメント看板	神田	第5回	優秀賞	賞
野村証券看板	横浜	第6回	第1部	3等
高野果実店看板	新宿	第6回	第2部	1等
エムプレスベッド看板	銀座	第6回	第2部	3等
雪印乳業看板	新宿	第7回	第2部	2等
日本ペイント看板	神田	第7回	第1部	3等
日本コロムビア看板	川崎	第7回	第1部	3等
松坂屋壁面ネオン	上野	第8回	最優秀賞	賞
ダンセット看板	渋谷	第8回	第1部	3等
ミラノ座看板	新宿	第8回	第2部	3等
日本コロムビア看板	秋葉原	第9回	第2部	3等
日通航空屋上ネオン塔	新橋	第9回	第2部	2等副賞ABC賞
オンワード屋上ネオン塔	八重洲口	第9回	第2部	3等
GSバッテリーネオン塔	田村町	第9回	第3部	3等
アサヒビール広告塔	吾妻橋	第10回	東京都市広告連盟賞第1部3等	
アサヒビヤホール袖看板	銀座	第10回	第2部	3等
東急不動産、東横白木屋屋上ネオン塔	溜池	第10回	サン写真新聞社賞	
以上ネオンコンクールは第10回を以って終了				

キリンビールネオン広告塔	東大井	第20回	第1部	2等
小田急百貨店ネオン広告塔	新宿	第20回	第1部	2等
地下鉄ネオン広告塔	新宿	第20回	第1部	3等
三井造船ネオン広告塔	築地	第20回	第1部	3等
地下鉄袖看板	新宿	第20回	第3部	1等
小学館ネオン広告塔○	神田	第21回	第1部	特選
SONYネオン広告塔	渋谷	第21回	第1部	1等
スパルネオン広告塔	新宿	第21回	第1部	3等
小田急ネオン広告塔	麻布	第21回	第1部	2等
リッカーマシンネオン広告塔	新宿	第21回	第1部	3等
東洋レーヨン袖看板	日本橋	第21回	第3部	2等
三越マーク広告塔	銀座	第22回	第1部	3等
東宝ツインタワー	日比谷	第23回	第1部	3等
パルコ袖看板	池袋	第23回	第3部	1等
東陶器機ネオン塔	虎ノ門	第24回	第1部	2等
花咲ネオン塔	市ヶ谷	第24回	第1部	3等
HENNESSY COGNACネオン塔	飯倉町	第24回	第1部	3等
三菱自動車シンボルタワー	本社	第24回	第2部	特選
IBM壁面文字	本社	第25回	第2部	1等
本田技研袖看板	本社	第25回	第2部	2等
ルシアンネオン広告塔	日本橋	第25回	第1部	佳作
小松ストアー袖看板	銀座	第26回	第2部	2等
Asahi、アサヒビール広告塔	中目黒	62年度	第1部	佳作
MITSUBUKOSHI®	銀座	62年度	第2部	佳作
CABIN&パッケージ広告塔	新宿	63年度	第1部	入選
マーク HASEKO広告塔	渋谷	63年度	第1部	佳作
PARKCITY ISETAN 2袖看板	新宿	63年度	第1部	佳作
ISETAN広告塔	新宿	元年度	第1部	優秀賞
Victoria袖看板	神田	元年度	第2部	佳作
MURAUCHI自立式広告塔	八王子	元年度	第2部	佳作
NOSVOS by PARCO広告塔	東大泉	2年度	第1部	入選
LOTUS SOFTWARE広告塔	五反田	3年度	第1部	優秀賞
WAVE広告塔	南池袋	3年度	第1部	入選
ボタンの博物館突出看板	日本橋	3年度	第2部	入選
kidsfarm パオ広告塔	渋谷	4年度	第1部	入選
ISUZU壁面文字	大森	5年度	第2部	入選
PARCO壁面文字	保谷市	5年度	第2部	入選
LAOX広告塔	秋葉原	6年度	第1部	入選
東京テレメッセージ広告塔	銀座	7年度	第1部	入選
SEIBU広告塔	田無市	7年度	第1部	入選
REGAL広告塔	市ヶ谷	7年度	第1部	入選
AOYAMA壁面サイン	日本橋	7年度	第2部	入選
フジテレビ広告塔	新橋	8年度	第1部	優秀賞
ISETAN壁面サイン	府中市	8年度	第1部	入選

## ※東京都屋外広告物審査(〇印は特選都知事賞授賞) 都市景観の向上を目的として開催(東京都計画局主催)

松坂屋看板	三原橋	第5回	第3部	1等
大和銀行看板	銀座	第6回	第2部	3等
集団建植看板	お茶の水	第7回	第1部	3等
山一証券看板	銀座	第7回	第2部	2等
雪印乳業看板	銀座	第7回	第2部	3等
野村証券看板	日本橋	第7回	第2部	3等
折込広告社看板	銀座	第8回	第2部	1等
日本コロムビア看板	新橋	第8回	第2部	3等
野村証券看板	上野	第8回	第3部	3等
三井銀行看板	八重洲口	第8回	優秀賞	賞
高野商店看板	新宿	第9回	第2部	1等
エムプレスベッド看板	銀座	第9回	第3部	3等
高野商店看板	新宿	第9回	広告研究美術賞	
雪印バター看板	新宿	第10回	第1部	1等
博報堂看板	神田	第10回	第2部	2等
東邦酒造看板	銀座	第11回	第3部	特賞
日本電気看板	新橋	第11回	第2部	3等
日通航空看板	新橋	第12回	第3部	特賞
キッコーマン醤油看板	東京駅	第13回	第2部	1等
高野商店看板	新宿	第13回	第3部	1等
日野自動車ネオン塔○	神田	第14回	第1部	特選
リッカーマシンネオン塔	渋谷	第14回	東京都推奨作品	
安田生命看板	新宿	第15回	第3部	1等
山一証券看板ネオン塔	新宿	第15回	第1部	3等
本田技研看板	本社	第16回	第2部	3等
日本石油看板	本社	第16回	第3部	1等
大和証券袖看板	兜町	第16回	第3部	3等
リッカーマシンネオン塔○	本社	第17回	第1部	特選
オリコミ袖看板	本社	第17回	第3部	2等
千代田シューズ袖看板	本社	第17回	第3部	3等
日東紅茶壁面看板	有楽町	第17回	第3部	3等
ブローパーネオン塔	京橋	第18回	第1部	3等
集英社袖看板	一ツ橋	第18回	第3部	3等
雪印乳業ネオン塔	本社	第19回	第1部	2等
リッカーマシンネオン塔	渋谷	第19回	第1部	3等
日本電気ネオン塔	本社	第19回	第1部	3等
東洋工業ネオン塔	南大井	第19回	第1部	3等
東京重機ネオン塔	新宿	第19回	第1部	3等

## 東京屋外広告コンクール 平成10年に東京都から引きつぐ(東京都屋外広告協会)

日本電気エンジニアリング広告塔	港区芝	10年度	第1部	会長賞(第1回)
ダイナースクラブ広告塔	銀座	10年度	第1部	会頭賞(第1回)
NTTドコモモニュメント(LED掲示板)	代々木	12年度	第2部	会長賞(第2回)
KOMATSUモニュメント	溜池	14年度	第1部	会頭賞(第3回)
TDK広告塔	銀座	16年度	第1部	会長賞(第4回)
リコー広告塔	銀座	18年度	第1部	会長賞(第5回)
サッポロビール広告塔	銀座	18年度	第1部	都知事賞(第5回)
山野楽器広告塔	銀座	20年度	第1部	会頭賞(第6回)
東京ファーストビジョン広告塔	池袋	22年度	第1部	会長賞(第7回)
高島屋袖看板	日本橋	24年度	第3部	都知事賞(第8回)
RBM広告塔	大門	24年度	第1部	会頭賞(第8回)
ホシザキ電機広告塔	高輪	26年度	第1部	会頭賞(第9回)
荻窪商事袖看板	荻窪	26年度	第2部	都知事賞(第9回)
新宿高野広告塔	新宿	28年度	第1部	会頭賞(第10回)
ペルサ屋上文字	新橋	28年度	第1部	都知事賞(第10回)
三本珈琲広告塔	新橋	令和2年度	第1部	会頭賞(第12回)



1952(昭和27)年 第5回ネオンコンクール表彰式

# NEXT GENERATION

## ～次の100年に向けて～

私ども昭和ネオンはお客様のご愛顧のもとお陰様で創業100周年を迎えることができました。今回私自身、会社創業歴史を紐解きつつ100年史を編纂して参りました。当社が施工に携わった多種多様にわたる造形美でもあるサインはまさにその時代を象徴するもので前社長高村五郎が生前にコレクションに注力し、のちに古美術看板集を出版した「時代を映す看板」というタイトルそのものを年代に違いはあっても、感じ取ることができました。その時代の文化、世情、人々の生活スタイルに則した様々なスポンサー作品はネオンを中心として華々しく都市の夜景とその時代背景を彩りました。作品写真の選抜、レイアウトに当たりましては限られたページ数に少しでも往時をしのばせる作品を、と慎重に選んだつもりです。多くのお客様にご愛顧頂き、支えられた100年の重みを改めて感じつつ1枚1枚の写真に感謝の気持ちを添えながら編集作業を進めてこの校了致しました。

そしてこれらの無数の作品群に欠かせないのは、歴代社員の技術力に裏付けされた熱意だと改めて感慨を深めるに至ります。大型サインが減少傾向にある事は否めませんが、当社の「モノづくり」の基本スタイルは今後も変わることなく社員の熱意と当社の得意とする機動力が基礎となっていることに今も昔も変わりがないと確信致します。この機動力は現在では当社におけるサインの切替事業(CI事業・VI事業)にも継承されており、協力業者会の「昭和会」との連携のもと、統一サインの全国一斉提供は当社の強みの1つでもあります。

100周年を区切りに新たな時代を迎えるにあたり、多種多様化する生活スタイルは屋外広告のあり方にも対応が求められてくると確信しております。中でもデジタル化は日々変容を遂げており超高度情報化社会へのインフラ的要素も踏まえた対処をすべく、当社では大型LEDビジョン「SHOWA VISION」を中心として更なる情報収集と新技術への即応体制を社員スタッフと共に図って参る所存であります。お客様、各業界団体関係者様、昭和会会員会社様の皆様にはこれまでのご交誼に厚く御礼を申し上げつつ、より一層のご高配を賜りまして次の100年への歩みを進めて参りたく、何卒宜しくお願い申し上げます。

末筆ではございますが皆様のご健勝を祈念しつつ、筆を擱かせて頂きます。

2022年6月  
株式会社昭和ネオン  
取締役副社長  
高村 祐次郎

